

目次

あいさつ センター長 金本 良通…………… 1
 『「力量ある質の高い教員」を目指す養成・研修の在り方」に関する調査研究 …………… 2
 「ストレス・マネジメント実践講座 アドバンスコースを開催しました！」…………… 2

教育実践研究部門より…………… 3
 学校臨床心理部門より…………… 4
 教員養成開発部門より…………… 5
 おしらせ・スタッフ・アクセス…………… 6

高次の知的能力の育成に関わって

センター長 金本 良通



中学校では、この24年4月より新学習指導要領の全面実施となる。あわせて高等学校の理数系教科も先行して実施される。小学校はすでに23年4月より全面実施となっている。高等学校の理数系教科が先行実施となっているのは、24年7月にOECDが実施する国際的な学力調査PISA調査が実施されることによるところが大きい。その結果は、翌年12月には公表されることとなっているが、それは今回の学習指導要領改訂の成果を問うことにもなる。

今回の改訂は、思考力・判断力・表現力の育成を重視しており、全国学力・学習状況調査の実施、学習評価の在り方の改善、特に観点「思考・判断・表現」の設置とその評価規準の提示等と一体的に進められている。このような能力育成重視の動向は、そのシステムづくりとともに新しい能力像を描き出している。1980年代以降の主要各国の教育改革において共通して見ることができるものである。高次の知的能力の育成というよいであろう。

このような能力像に共通する特徴としては、次の2点が指摘されている(松下佳代、『(新しい能力)は教育を変えるか』, 2010)。

① 認知的な能力から人格の深部にまでおよぶ人間

の全体的な能力を含んでいること

② そうした能力を教育目標や評価対象として位置づけていること

この①は、「能力の中に、可視化しやすい認知的要素(知識やスキル)だけでなく、より人格の深部にあると考えられる非認知的要素(動機、特性、自己概念、態度、価値観など)をも含む」(松下, 2010)という意味で捉えられる。②は、前述のように我が国でもすでに進められている。

ところで、このようなことを話題にすると、すぐに国語と算数・数学に目が向けられる。少し我田引水にはなるが述べておきたい。

数学教育学は、理論と実践の二つの相補的側面をもつ設計科学といえる。理論の構築とともに、実践的側面として授業構成の在り方の検討と提案が大切になる。

算数・数学の学習は、公式を覚えて解を求めることに習熟することだけではない。近年は、教室の風景に子どもたちの話し合いや「練り上げ」活動が強調されるようになってきている。そして、今日では、算数・数学の目標及び指導内容の中に、思考力や判断力だけでなく、コミュニケーションを含め表現力の充実が叫ばれるようになってきている。そのことは、個人の能力としての捉え方とともに、個人と学習集団の双方向的な意味構成活動という捉え方をも必要とすることになる。さらには、学習集団として公共的なものを追究し協同的に構築していくという学習活動を、算数・数学学習の本質として重視することになる。そして、このような展開の中に、今日の高次の知的能力の特徴①②が組み込まれることとなる。

教科の教育の一つの変化ではあるが、学校教育における協同的な活動の中に織りこまれた公共性の追究と高次の知的能力の育成の一層の充実を願っている。

「『力量ある質の高い教員』を目指す養成・研修の在り方」に関する調査研究

平成22年度に引き続き、教員の資質能力の向上に係る追跡調査研究を実施しました。

本研究は、次のような目的で、平成21年度から行っています。

- 教員としての資質能力がどのように養成されているのかを明らかにする。（研究の柱1）
- 優れた人材を教員として確保するための養成・研修の在り方を明らかにする。（研究の柱2）

平成21年度は教員採用選考試験を受験した埼玉大学教育学部の4年生を、平成22年度は平成21年度の調査対象者のうち、埼玉県及びさいたま市に新規採用された小・中学校の教員を対象に調査を行いました。そして、平成23年度は平成22年度と同じ教員を対象に、2年次における調査を行いました。

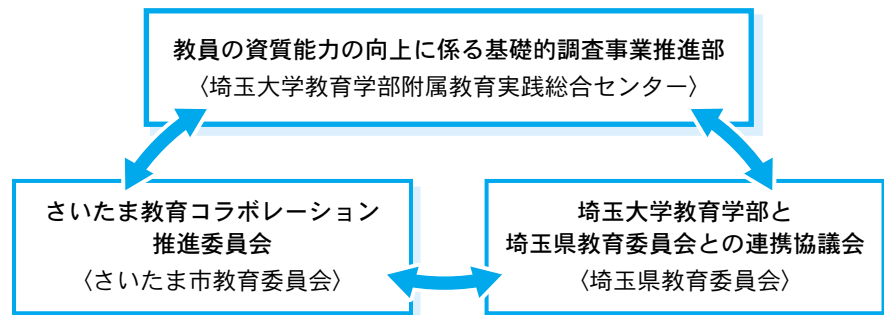
研究を進めるに当たっては、小・中学校長等を委員とする推進部と埼玉県及びさいたま市の管理主事、指導主事等を委員とする企画部を組織しています。

本年度も、昨年度同様、質問紙調査（2年次教員、管理職がそれぞれ回答）を行い、次のような観点で研究のまとめ（3年次）を行いました。

【調査の観点】

- ・ 教職に対する情熱
- ・ 学習指導
- ・ 生徒指導
- ・ 学級経営
- ・ 人間関係を築く力
- ・ 校務分掌
- ・ 勤務状況及び心身の健康状況

【調査研究のための組織】



「ストレス・マネジメント実践講座 アドバンスコースを開催しました！」

例年「人間形成総合科目：ストレス・マネジメント」の受講者から、さらに学びたいというリクエストを受けて開催している単発講座です。今年度は2回行い、学部生、大学院生が参加しました。授業とは違い体験が主な講座なので、「内容が具体的でわかりやすい」「ワークが楽しかった」「自分を振り返る良い機会になった」「日常生活でも活用したい」といった感想が多く、好評でした。来年度以降も開催する予定です。

第1回「自分の特徴を理解してストレスに強くなる

—交流分析の「人生脚本」の視点から—

12月5日（月）13時～16時半（東京経済大学 鈴木佳子先生）

第2回「自分も相手も大切に、上手に「NO」を言ってみよう！

—ロールプレイによる「断る」体験・「断られる」体験—

2月9日（木）13時～16時半（目白大学 日高潤子先生）



教育実践研究部門

教育の臨床の学の探求

実践者・授業者としての
専門性の探究

- 「学ぶこと」のヴィジョン
- Action のリフレクション

教師の授業実践と 子どもの学びを支援

教室の
アクション・リサーチ
実践知の省察

学生・院生も含めた相互共有

プロジェクト研究

教員養成カリキュラムの
基礎研究

- 教職専門性スタンダード
- 学び合うコミュニティ
- 表現する身体 声と他者

平成23年度

アクション

・リサーチ連携校

- ・新座市立野寺小学校
- ・熊谷市立中条中学校
- ・同 大幡中学校
- ・白岡町立篠津中学校
- ・須賀川市立西袋第一小学校
- ・宇都宮市立陽東小学校
- ・江東区立南陽小学校
- ・茅ヶ崎市立浜之郷小学校
同 小和田小学校
- ・富士市立元吉原中学校
- ・富山市立奥田小学校
- ・伊丹市立天神川小学校
同 神津小学校
- ・高知市立鴨田小学校
- ・香南市立野市東小学校

学校改革・授業改革

- 「聴き合う」「学び合う」学び
- 「探究」と「対話」による学び
- 「同僚性」の構築
- 「アクション」～市民性への学び

平成23年度

木曜ゼミ 検討事例

- 表現3, 4, 5才児『音・動き・ことば』
郡山女子大学附属幼稚園
- 算数1年生「時計のよみかた」
茅ヶ崎市立浜之郷小学校
- 音楽1, 6年生「歌う・アンサンブル」
お茶の水女子大学附属小学校
- 国語2年生「いつでも会える」
高知市立一ツ橋小学校
- 総合3年生「養蚕のアタリを願って」
身延町立久那土小学校
- 国語4年生「一つの花」
練馬区立豊玉南小学校
- 国語4年生「ふしぎ（金子みすず）」
宇都宮市立陽東小学校
- 総合4年生
「なぜ切房木に岩船地蔵がまつられたか」
身延町立久那土小学校
- 国語2年生「形」
熊谷市立中条中学校
- 国語2年生「形」
富士市立元吉原中学校
- 道徳3年生「心の贈り物」
熊谷市立中条中学校
- 英語3年生「学校とは」
熊谷市立中条中学校
- 数学3年生「循環小数と分数」
熊谷市立中条中学校

Narrative Standard の開発

協働生成・形成的スタンダード

1. 授業と学びを物語ること
2. 形成的評価＝発展開発機能
3. カリキュラム開発機能
4. 同僚性を構築すること
5. 授業者としての身体性
聴く ～ 対話
声～Elaboration～交響
レッスンの場としての機能
6. 大学が役割を果たしつつ、
学校コミュニティの場創り

「木曜ゼミ」

ビデオによる授業カンファレンス

- 木曜日 午後6時
- クリニコス・ホール
(コモ棟2F)

県内外の小・中学校の授業実践の
ビデオを見て、語り、学び合いま
す。

多様な視点の交流により、教師の
実践知を学び合いましよう。

どなたでも参加できます。
(県内外の教職員・学生・院生)

事前にご連絡を。

さいたま市の「教師力パワーアッ
プ講座」と連携して、「第3金曜」
にも行う予定です。

ほか

学校臨床心理部門

本部門は従来、学部の教員養成に関わる活動、附属学校園との連携強化、研究活動、地域貢献に力を入れています。今年度は、教員を対象とした支援活動・研修機会の提供を重点課題として取り組みました。また、授業や講座の開催などを通して、センター内の部門間連携活動を活発に行いました。

◆学部学生への指導・支援

1. 人間形成総合科目「ストレス・マネジメント」の実施

『人間形成総合科目』「ストレス・マネジメント」が開講4年目を迎え、当部門の教員2名と教育実践研究部門の教員1名の3名がオムニバス形式で担当しました。「教職とストレス」では教員養成開発部門の教員2名をゲストスピーカーとしてお招きし、「ストレスとのつきあい方」では音楽教育講座の教員にプロの演奏家としての日々の過ごし方などをピアノ演奏を交えてお話いただきました。今年度も学生には好評で、「気持ち楽になった」「ロールプレイングやリラクゼーションなど、体験学習が参考になった」「ストレスへの対処法や考え方を学び、実践することにより、人間として成長することができた」などの感想が寄せられました。

2. 「ストレス・マネジメント実践講座アドバンスコース」の実施

上記授業のアドバンスコースとして、今年度は外部講師をお招きして、ストレス・マネジメント実践講座を12月に1回、2月に1回開催しました。

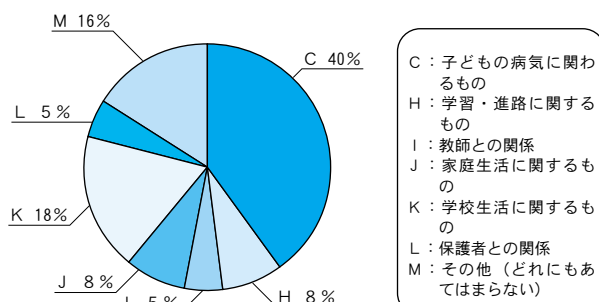
- ・第1回「自分の特徴を理解してストレスに強くなる—交流分析の「人生脚本」の視点から—」12月5日
講師：東京経済大学学生相談室 鈴木 佳子 先生
- ・第2回「自分も相手も大切に、上手に「NO」を言ってみよう！—ロールプレイによる「断る」体験・「断られる」体験—」2月9日
講師：目白大学人間学部 日高 潤子 先生

◆附属学校園との連携

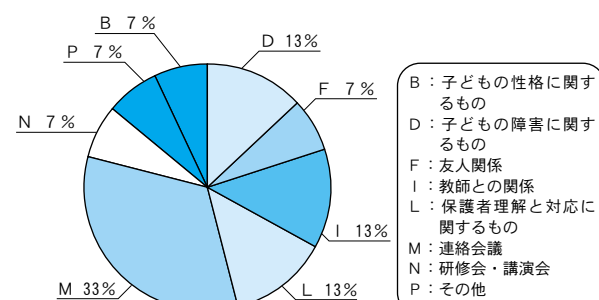
1. 附属学校園の児童・生徒、保護者、教員やスクールカウンセラーを対象とした相談活動

この相談活動は、附属学校園との連携の軸であり、附属中学校に配置されたスクールカウンセラーとも連携を図りながら、相談活動を行っています。相談およびコンサルテーションの内容と割合は以下の通りです(2012年1月末日現在)。

相談内容



コンサルテーション内容



◆さいたま市（教育研究所）とのコラボレーション講座の開講

教育実践研究部門とともに、「教職員のためのメンタルヘルスとリラクゼーション講座」を毎月開講しています。今年度は新たに、教員養成開発部門と共同で「教員キャリアアップ・サポートセミナー」を2回開講しました。来年度は年10回の開講を予定しています。

◆研究活動

- 今年度のセンター紀要において、研究員とともに、以下の研究報告を行っています。
- ・「高校生の学校ストレスに関する自己効力感、コーピング様式が現実の行動・理想の行動に及ぼす影響—学力差の検討」若海由美・尾崎啓子
(センター紀要第11号印刷中)
 - ・「保護者と教師間の信頼関係構築に向けた成功プロセスモデル」米澤基宏・尾崎啓子
(センター紀要第11号印刷中)
 - ・「内装木質化された校舎における中学生の学校生活とストレス反応について」浅田茂裕・長南あずさ・大西遼介・新井翔大・尾崎啓子
(センター紀要第11号印刷中)
 - ・「中学校におけるスクール・カウンセラーの活動（2）～保護者に対する支援」相澤直子
(センター紀要第11号印刷中)

教員養成開発部門

「教員養成開発部門」は、本年度も引き続き、埼玉県及びさいたま市教育委員会と連携し、教員養成の充実、教員の資質能力の向上等について、より一層実践的な研究及び活動を行っています。

1 「『力量ある質の高い教員』を目指す養成・研修の在り方」に関する調査研究

平成21年度から、文部科学省の委託を受け、追跡調査を実施しています。平成22年3月に本学教育学部を卒業し、平成22年度当初に埼玉県、または、さいたま市に新規採用された小・中学校教員約80名を対象にしています。本学教育学部に在籍していた4年次からスタートし、教員1年目、2年目まで、3年間にわたる追跡調査です。

(※詳しくは、2ページ参照)

2 教育委員会との連携を視野に入れた「学校フィールド・スタディA」の実施

大学と学校現場との学びを往還的につなぎ、質の高い教員としての資質能力を育成する目的で実施している本授業は、本年度も引き続き、学びのフィールドを幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校に確保し、学生の体験の充実を図ってきました。本授業を推進する観点から、以下の活動を実施しています。

- 事前授業の実施（5月・10月）
- 実施校への視察と協議の実施（11月～1月）
- 振り返り授業①②の実施（10月・1月）
- 学習相談、補充授業の実施（適宜）



【グループ協議の様子】

特に、振り返り授業①②では、指導者として埼玉県・さいたま市教育委員会の方に御講義をいただいたり、グループ協議の中で指導講評をいただいたりしています。

3 進路指導委員会、教職支援室との共催による教職支援セミナーの実施

教職支援セミナーは、教員としての職務を円滑に進めることができる能力や、教員としての見方・考え方等の資質の育成を図ることを目的としています。

教育に係わる国の動向、埼玉県・さいたま市教育委員会の推進する教育施策、学校現場の抱える様々な課題、服務と教育法規等についての講義を実施しています。

主として、前期には4年生対象プログラムを、後期には3年生対象プログラムを実施しています。各プログラムともおよそ300名の学生が参加し、教職に対する理解を深める機会となっています。

4 教職スタート準備講座の実施

卒業後、教職に就く予定の学生を対象に、実践的な能力の習得を目指し、10月から2月までの間、約150名の学生が参加し、セミナーを実施しています。即戦力を身に付けさせ、質の高い教員として学校現場で活躍できるよう、以下のとおり、プログラムを一層工夫し開催しています。

《プログラム例》

- ・教師の一日と学校の一年間
- ・保護者対応
- ・学校事故への対処
- ・生徒指導の基礎基本
- ・教科等の授業づくり
- ・発問、板書、ノート指導の工夫
- ・学級事務、学級通信
- ・学級開きと保護者会 等

なお、講師については、教育委員会、附属学校教員をはじめ、学校教育の第一線で活躍されている方を招聘しています。

5 さいたま市立小中学校の研究発表会への学生参加

さいたま市教育委員会の協力の下、さいたま市立小中学校研究発表会への参加を促し、教育実践や学校研究に触れる機会を設けています。

平成23年度は、現在まで、およそ40名という多くの学生が参加し、学校現場に触れ、指導方法等への興味・関心を深める機会となっています。

